

栗原市立病院事業職員採用試験(行政職)

- **申込期限** 10月30日(金)必着
- **試験日** 11月7日(土)
- **試験会場** 栗原中央病院
- **試験方法**
 - SPI能力検査、性格検査
 - 作文、面接
- **職種、採用人数**
 - **行政職(社会人)** 数人程度
- **受験資格**
 - **行政職(社会人)** 昭和62年4月2日から平成13年4月1日までに生まれた人で、直近7年間に一般病床を持つ病院で、医事、総務、企画などの業務で実務経験が3年以上ある人
 - **行政職(診療情報管理士)** 昭和62年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた人で、診療情報管理士の資格がある人または、令和9年3月までに取得見込みの人
- **採用日** 令和9年4月1日
- **申し込み** 試験案内と申込書は、栗原中央病院2階医療管理課で配布します。

メンタルヘルス講演会

- **内容** テーマ「ほどよい距離感でつながる」家族・職場・自分を大切にするためのヒント」
- **講師** ふくしま心のケアセンター 避難地域支援センター長 片柳 光昭氏
- **定員** 350人
- **※予約不要**



子どもの各種予防接種費用を全額助成

- **対象の予防接種**
 - インフルエンザ予防接種
 - 新型コロナウイルスワクチン接種

高齢者向け各種予防接種

- **インフルエンザ予防接種**
 - **接種期限** 令和9年1月31日(日)
 - **自己負担金** 1700円
- **新型コロナウイルスワクチン接種**
 - **接種期限** 令和9年3月31日(水)
 - **自己負担金** 8千円
- **共通事項**
 - **接種場所** 市内の指定医療機関
 - **接種対象者** 市内に住所があり、次の①または、②に該当する人
 - ① 65歳以上の人
 - ② 60歳以上65歳未満で、心臓、腎臓、呼吸器の機能または、ヒト免疫不全ウイルスによって免疫機能が低下している人

- **接種期限** 令和9年3月31日(水)まで
- **接種場所** 市内の指定医療機関
- **接種対象者** 市内に住所のある生後6カ月から中学3年生または、義務教育学校9年生までの人
- **自己負担金** 無料
- **申し込み** 事前に指定医療機関へ予約してください。
- **注意事項**
 - 鼻に噴霧するタイプのインフルエンザワクチンも対象です
 - マイナ保険証または資格確認書、医療受給証など、住所と年齢が確認できるものを持参してください
 - 市外の医療機関で接種する場合は、医療機関窓口で一度自己負担していたですが、市に申請することで、後日払い戻しを受けることができます
 - **※指定医療機関など、詳しくは市ウェブサイトを確認してください。**



イルスによって免疫機能に障害があり(身体障害者手帳1級に相当する程度)、接種を希望する人

※①に該当する人には、インフルエンザ予防接種の予診票を送付します。新型コロナウイルスワクチン接種の予診票は送付しませんので、接種を希望する人は医療機関に備え付けの予診票で接種してください。

※②に該当して、予防接種を希望する人は、各保健推進室まで問い合わせください。

- **申し込み** 事前に指定医療機関へ予約してください。
- **注意事項**
 - 予診票を忘れずに持参してください
 - 市外医療機関で接種を希望する場合は、必ず接種前に各保健推進室へ相談してください
- **自己負担金の注意事項**
 - 市外医療機関で接種を希望する人で保健推進室へ事前に相談をしないで接種した場合、全額自己負担となります
 - 市外医療機関の接種料金(自己負担金)は異なる場合があります

各種検診申込受付を開始

- **対象**
 - **男性** 30歳以上の人
 - **女性** 20歳以上の人
- **申込期限** 10月30日(金)
- **申し込み** 申込書を同封の返信用封筒に入れて郵送するか、居住する地区の保健推進室または、各総合支所市民サービス課に提出してください。
- **※土・日曜日、祝日は、各総合支所に回収ボックスを設置します。**
- **注意事項**
 - 市の検診を受けない人も、理由を記入の上、申込書を必ず提出してください
 - 会場など詳しくは、後日送付する受診票と併せて通知します
 - 病院で検査や定期受診をしている人は、医療受診で健康管理をしてください

市内の文化財散策

② 脱穀用農具 足踏脱穀機

足踏脱穀機は、刈り取って乾燥させた稲の穂先からもみを取るために使った、足踏み式の回転型脱穀機です。

稲の脱穀は、古くは扱管や扱箸を使い、1本から数本単位での地道な作業でしたが、江戸時代前期に発明された千歯扱きによって作業能率が一気に上がり、200年もの間、農家を支えました。これに代わったのが明治末に発明された足踏脱穀機です。1時間当たりの作業量は、千歯扱きが約45把、足踏脱穀機はその6倍前後の約250把から300把と伝えられています。

その仕組みは、ペダルを踏んでフランクを回すことで、逆V字型の銅線や鉄線の扱き歯がついた円筒形の胴を高速で回転させるものです。そこに束ねた稲穂を適当な角度に当てることで素早くもみを扱き落とすことができます。山口県や広島県で考案され、その能率の良さから大正時代に急速に普及しました。

現在、市では民俗資料として10点の足踏脱穀機を所蔵しています。そのうち7点は愛知県、埼玉県、福島県、山形県で製作されたものです。大正時代から実際に使用されていたという資料も含まれ、山口県で発明された農機具が短期間のうちに広く流通しただけでなく、全国各地に製作の技術も広がったことが分かります。



▲足踏脱穀機

その後、農業の機械化が進むにつれて、さらに作業効率の良いエンジンなどの動力付き脱穀機が登場しますが、足踏脱穀機は当たりが柔らかくもみを傷つけないことから、少量の収穫物を扱う際やソバ、大豆、麦などの脱穀に今でも使われることがあります。

● **問 教育部文化財保護課**
☎(42)3515



市長随感

栗原市長 佐藤 智

夢を育む、スポーツの力

秋も深まり、スポーツを楽しむには、心地良い季節になりました。今年は、青森県を舞台に「青の煌めきあおり国スポ」が開催されます。第80回となる今大会は、10月10日から20日まで開催され、青森県では49年ぶりの開催となります。

25年前の「新世紀・みやぎ国体」では、私も旧築館町の国体推進課に勤務し、大会運営に奔走したことを今でも鮮明に覚えています。

今年も全国から集う選手の皆様が力を発揮し、熱戦を繰り広げることを期待します。特に、宮城県を代表して出場する選手の皆様には、日々の練習の成果を存分に発揮してもらえよう、私も精一杯声援を送りたいと思います。

スポーツには、見る人に感動や勇気を与え、世代を



▲市内で活発に行われるホッケー